

《担当者名》教授 / 小林 道也 教授 / 平野 剛 教授 / 柴山 良彦

【概要】

薬物送達学、製剤学、生物薬剤学に関する講義を科目横断的に履修し、医薬品動態の制御に関する基礎的知識を修得する。

- ・ 種々のドラッグデリバリーシステム製剤の種類と特性を学び、合わせて薬物療法の効果を個々の患者で最適化するための投与計画について基礎的知識を修得する。
- ・ 各種投与剤形の製造法、品質管理、使用上の注意点などについて総合的に学び、薬物治療と製剤の投与形態との関連性を理解する。
- ・ 医薬品の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)に関するトランスポーターの役割を理解し、医薬品開発と生体異物処理機構の関わりについて学ぶ。

【学修目標】

- ・ 代表的なドラッグデリバリーシステムの種類を列挙し、その特徴を説明できる。
- ・ 患者個々の特性に合わせたドラッグデリバリーシステムを選択できる。
- ・ 代表的な剤形の製剤の製造法、品質管理、使用上の注意について説明できる。
- ・ 様々な剤形と特徴と薬物治療上の意義について説明できる。
- ・ 薬物の体内動態におけるトランスポーターの役割について説明できる。
- ・ 生体の異物処理機構を回避するための医薬品開発手法について説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 5	適正な薬物療法を指向したドラッグデリバリーシステム	・ 代表的なドラッグデリバリーシステムの種類を列挙し、その特徴を説明できる。 ・ 患者個々の特性に合わせたドラッグデリバリーシステムを選択できる。	平野 剛
6) 10	種々の剤形の特徴と薬物療法における意義	・ 代表的な剤形の製剤の製造法、品質管理、使用上の注意について説明できる。 ・ 様々な剤形と特徴と薬物治療上の意義について説明できる。	柴山 良彦
11) 15	トランスポーターの関与した薬物体内動態と医薬品開発	・ 薬物の体内動態におけるトランスポーターの役割について説明できる。 ・ 生体の異物処理機構(代謝、抱合、能動的分泌等)を回避するための医薬品開発手法について説明できる。	小林 道也

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【評価方法】

授業態度(30%)、課題レポート(70%)

【教科書】

各講義ごとに、プリントを配布する。

【参考書】

図解薬剤学(南山堂)

臨床製剤学(南江堂)

Applied臨床薬物動態学(京都廣川書店)

【学修の準備】

市販されている医薬品の開発の経緯や製剤学的特徴等について、常に好奇心を持って情報収集して本講義の理解を高めること。